

平成22年度事業報告

I. 学術集会, 講演会, シンポジウムの開催

(1) 日本心理学会第74回大会

期日：平成22年 9月20日 (月) —22日 (水)

会場：大阪大学豊中キャンパス

主催校：大阪大学 (大会会長：三浦 利章教授)

(2) 公開シンポジウム

(a) 利他性の心理と行動——思いやりの根源とその意義を探る——

i) 期日：平成22年 7月25日 (日)

会場：科学技術館サイエンスホール

ii) 期日：平成22年 8月 1日 (日)

会場：京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール

(b) 頭の良さについて考える：IQとEI

i) 期日：平成22年10月16日 (土)

会場：科学技術館サイエンスホール

ii) 期日：平成22年12月 4日 (土)

会場：鹿児島大学稲盛会館

II. 学会誌等の刊行

(1) 機関誌“心理学研究”第81巻第1号—第6号を刊行した。

(2) 機関誌“Japanese Psychological Research” Vol. 52, No. 2-No. 4 & Vol. 53, No. 1を刊行した。

(3) 会誌“心理学ワールド”第49号—第52号を刊行した。

(4) “心理学ワールド 50号刊行記念書籍”を刊行した。

III. 研究業績の表彰と研究の奨励

(1) 社団法人日本心理学会優秀論文賞の選考

平成21年度刊行の“心理学研究”および“Japanese Psychological Research” (特集号を除く) 掲載の原著論文のうちから選考委員会において受賞論文を決定し、平成22年度会員集會時に授与式を行った。

< 優秀論文賞 >

(a) 信頼が報われる条件

著者：神信人 (淑徳大学) ・田中寿夫 (千葉県子どもと親のサポートセンター)

掲載：心理学研究第 80 巻第 2 号

(b) 共通基盤を考慮する前にアイロニー的意味の活性化は生じるのか

著者：秋元頼孝・邑本俊亮 (東北大学)

掲載：心理学研究第 80 巻第 5 号

(c) アイロニーによる非難の対象は反復的言及によって同定されるか

著者：石田容士・阿部純一 (北海道大学)

掲載：心理学研究第 80 巻第 6 号

(d) Flow experiences in everyday activities of Japanese college students: Autotelic people and time management

著者：石村郁夫・小玉正博（筑波大学）

掲載：Japanese Psychological Research Vol.51 No.1

(e) Nine- to 11-month-old infants' reasoning about causality in anomalous human movements

著者：小杉大輔（静岡理工科大学）・石田開（岐阜聖徳学園大学短期大学部）・

村井千寿子（玉川大学）・藤田和生（京都大学）

掲載：Japanese Psychological Research Vol.51 No.4

(2) 社団法人日本心理学会優秀論文賞の授与

受賞論文に対して、研究奨励金を授与した。

IV. 国際的活動の表彰

(1) 社団法人日本心理学会国際賞の選考

国際賞選考委員会にて、国際賞授賞者を選考し、平成22年度会員集会時に授与式を行った。

<国際賞>

功労賞

坂野 雄二（北海道医療大学 心理科学部）

奨励賞

平田 聡（林原生物化学研究所類人猿研究センター）

増田 貴彦（アルバータ大学 心理学部）

齋木 潤（京都大学 人間・環境学研究科）

齊藤 智（京都大学 教育学研究科 教育認知心理学講座）

(2) 社団法人日本心理学会国際賞の授与

受賞者に対して、賞金と記念品を授与した。

V. 資格の認定

(1) 社団法人日本心理学会認定心理士資格の審査と授与

平成23年3月31日現在、総件数3 482件を審査し、3 069名を合格、86名を不合格、327名を保留とした。必要な手続を経て資格を取得した者は3 179名であった。

(2) 社団法人日本心理学会認定心理士研修会

(a) 広告におけるメディアの役割と消費者の心理

期日：平成22年 5月22日（土）

会場：泉ガーデンコンファレンスセンター（六本木）

(b) ストレス社会でいかす認知行動療法

期日：平成22年 5月29日（土）

会場：金城学院大学

(c) 初めて出会う認知行動療法

期日：平成22年 9月20日（月）—22日（水）（第74回大会内）

会場：大阪大学

(d) 知能としての言語と音楽

期日：平成22年10月10日（日）（北海道心理学会内）

会場：札幌国際大学

(3) 認定心理士資格準拠教科書の編集

VI. 学会業務の電子化とその促進

(1) 機関誌投稿編集業務の電子化

論文の投稿受付は投稿・編集システムにより行っている。

(2) その他の学会業務の電子化

会員管理システム改訂の検討を行った。

VII. 関連学術団体等との連絡および協力

(1) 国際心理科学連合

分担金を支払った。

(2) 国際テスト委員会

分担金を支払った。

(3) 日本学術会議

学術研究協力団体として、研究協力を行った。

安全工学シンポジウムに共催した。

(4) 日本心理学諸学会連合

本会から3名、理事として参加している。

会費および認定心理士承認料を支払った。

(5) 日本認定心理士会

協力金を支払った。

VIII. 本会の目的を達成するために必要なその他の事業

(1) 各種委員会の開催

常置委員会・特別委員会にて所管事項を審議した。

(2) 研究集会等への支援

25件の研究集会等助成を行なった。

(3) 国際会議参加者への旅費補助

21名の国際会議参加者への旅費補助を行なった（国際応用心理学会，韓国心理学会 他）。

(4) 公益社団法人申請の検討

公益社団法人化申請を行い，移行が認定された。

(5) 会員名簿の改訂ならびに発行

会員名簿を刊行した。

(6) 代議員・役員選挙の実施

代議員選挙，理事・監事選挙を実施した。

(7) その他

以上